

復元紹介 未刊の三木露風自選集

— 遺稿(三鷹市所蔵)より

三木露風研究会編

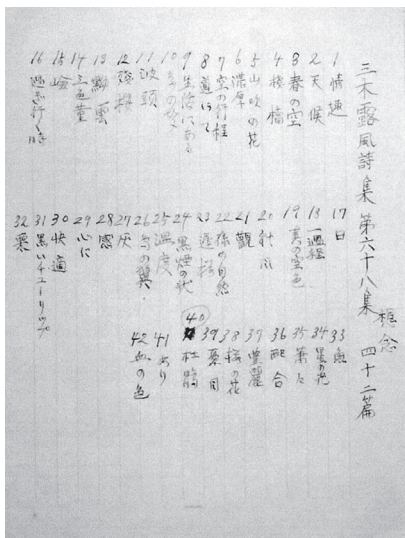
自選詩集

『想念』(三木露風詩集 第六十八集)

目次

- 1 情趣
- 2 天候
- 3 春の空
- 4 棧橋
- 5 山吹の花
- 6 濃厚
- 7 空の行程
- 8 道にて
- 9 生活にある
- 10 鳥の聲
- 11 波頭
- 12 残櫻
- 13 駒雲
- 14 三色堇
- 15 嶮
- 16 過ぎ行く時
- 17 日
- 18 一過程
- 19 春の空色
- 20 秋風
- 21 観
- 22 緑の自然
- 23 遅櫻
- 24 黒煙の状
- 25 温度
- 26 鳥の翼
- 27 灰
- 28 感
- 29 心に
- 30 快適
- 31 黒いチュウリップ
- 32 栗
- 33 魚
- 34 星の光
- 35 蕭々
- 36 配合
- 37 豊麗
- 38 桜の花
- 39 憂目
- 40 杜鵑
- 41 あり
- 42 血の色

(42篇中35篇を復元)



▶三木露風詩集 第六十八集 「想念」 目次

春の空

春の淺黄の空の色、
そこに暖かい霧囲氣があり、
椿の固い澤のある深緑の葉が、
日の光で光つてゐる。

今日は楽しい、
下界が、
私の心を左右して、
満たしている。

残櫻

風強く雨も降り頻り、
惜しまるゝ中に櫻の花の散りて、
今年の花の終りは近しと、
思はせしが、
残櫻のあるあり、
いさゝかはよし。

花を見る人々の心は、
四月の半ばに至らぬに、
一ひらもとゞめぬ櫻に、
充たされぬ思ひを、
とりかえず、八重櫻に。

遅櫻なる八重櫻は、
濃厚の氣を、
たっぷりと吸ひこんでゐるのが、
その状に表はる。

事繁き中にたま／＼の、
心傾く時の華やぎ、
その時を、
見出して足らふに似る。
遅櫻、八重櫻。

四月と云へば、
櫻の花、

さるに此の月にして、
余り持たず。

残櫻を見て、
盛りなりし日を、
思ひに持つ。

好時にして、
残櫻の花色、
曇りを帯びず。

遅櫻

遅櫻は八重櫻にて、
その葉は澤のある柔い茶褐色、
花色に紅を加えており、
重く咲きて、そこに特色ある、
美を示す。

星の光

燦爛たる彼の世界は、
北斗七星の如く、
順序よく並びたるもあれど、
大方は散乱せり。
宇宙は實に、
不規則なる形状をば示し、
大なるがあり、小なるがあり、
而して北の北斗星が、
南の十字星に對す。
壯觀、
言ふべき言葉なし、
光輝の美觀、
森然として、
我が眼に映る。